

第2章 PTA 指導者研修における家庭教育に関するアンケート調査

1 調査方法等

(1) 調査対象

栃木県では、昭和 46 年度から県内の PTA 活動をより一層促進するため県教育委員会が主催して、栃木県市町村教育委員会連合会、栃木県 PTA 連合会・栃木県高等学校 PTA 連合会と共催で PTA 指導者研修を行っている。PTA 指導者研修には I と II があり、今回、調査を行った PTA 指導者研修 I は、教育事務所ごとに 7 会場で行われるもので、単位 PTA の会長等の指導的役割を果たしている保護者及び教職員等を対象として、PTA の在り方、PTA の活動、保護者と学校の連携、PTA の果たすべき役割、今日的な課題等について研修を重ね、指導者としての資質向上を図る目的で行われている。その参加者を対象にアンケートを行った。

(2) 調査内容

家庭教育に関する学びの経験等について下記の内容を調査した。

研修参加者個人の考えに関する内容

- ・子育てに関する学びの場への参加経験の有無や子育てに関して学んでみたいこと
- ・親学習プログラムの認知と参加経験の有無
- ・栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の認知と活動参加経験の有無

所属する単位 PTA に関する内容

- ・家庭教育に関する学びの場の提供の有無とその協力団体
- ・所属する PTA の会員同士のつながり作りの有無
- ・所属する PTA の会員同士のコミュニケーションを増やす活動の有無
- ・所属する PTA 活動における父親参加について
- ・PTA 活動における家庭教育支援を充実させるための工夫や学習したい内容、効果を上げるために協力したい団体

(3) 調査方法

ア 調査票の配布等

PTA 指導者研修 I の会場で研修参加者に調査票を配布し、回答を得た。

対象者	対象者数	回答数	回答率 (%)
PTA 指導者研修 I 参加者	1404	992	70.7

イ 調査期間

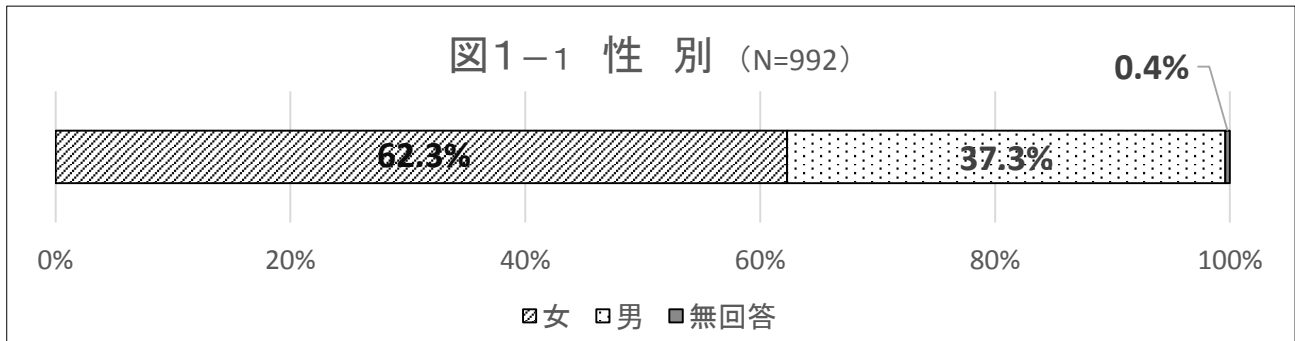
平成 29 年 6 月から平成 29 年 7 月

(4) 集計の表現について

回答率（各回答の百分率比）は少数第 2 位を四捨五入した。単数回答の百分率の合計は 100% であるが、四捨五入のために合計が見かけ上 100% にならないことがある。

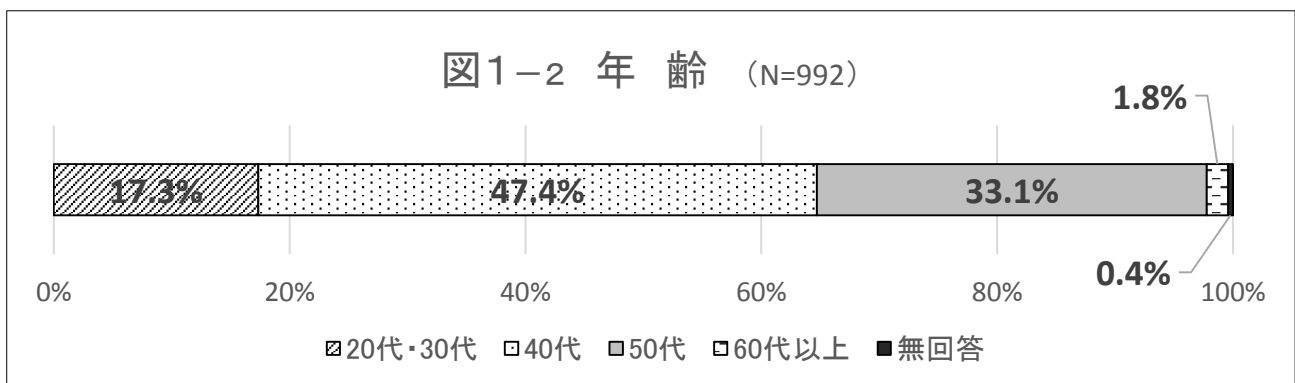
2 回答者の概要

(1) 性別



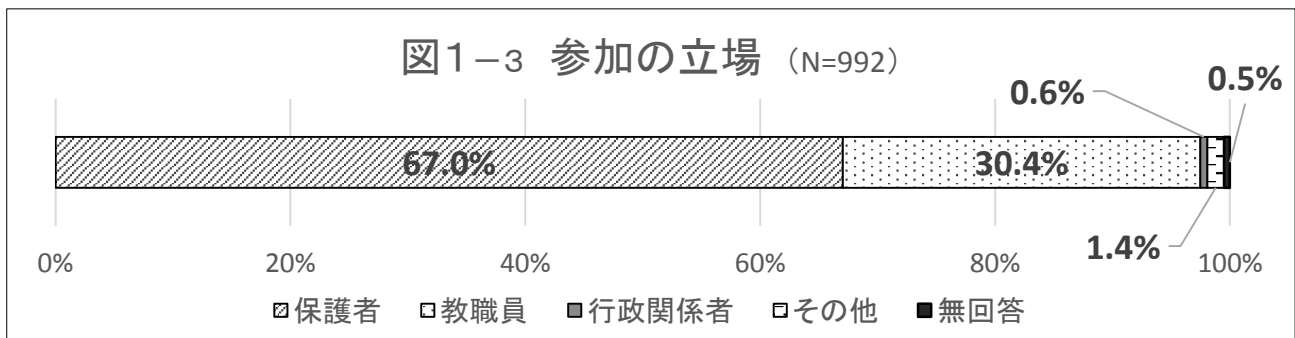
女性の参加が60%を超えている。【図1-1】

(2) 年齢



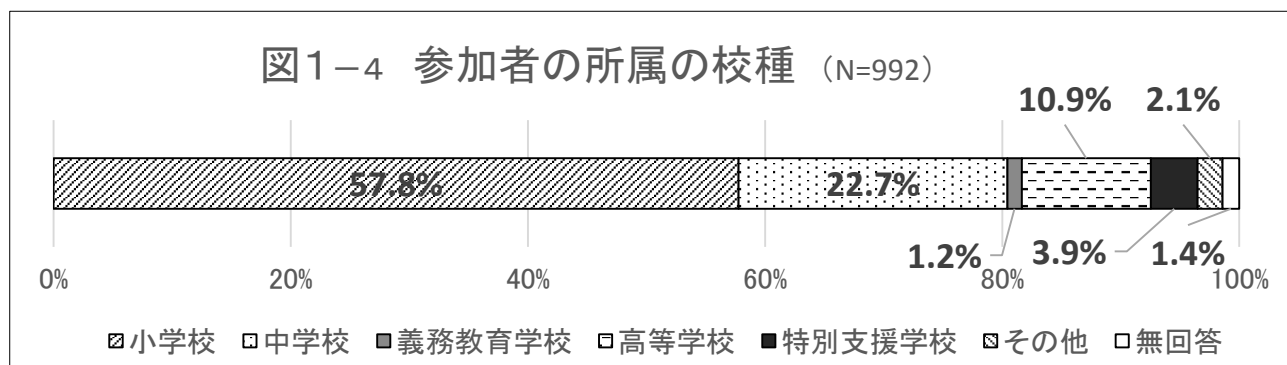
小学校から高校までのPTAの役員を中心とした方々が主な参加者であり、40～50歳代が全体の約8割を占めた。【図1-2】

(3) 研修会への参加の立場



保護者会員および、教職員の外、行政関係者が業務として参加していることから、どの立場として出席しているかを回答してもらった。保護者は67.0%、教職員が30.4%であった。【図1-3】

(4) 参加者の所属の校種

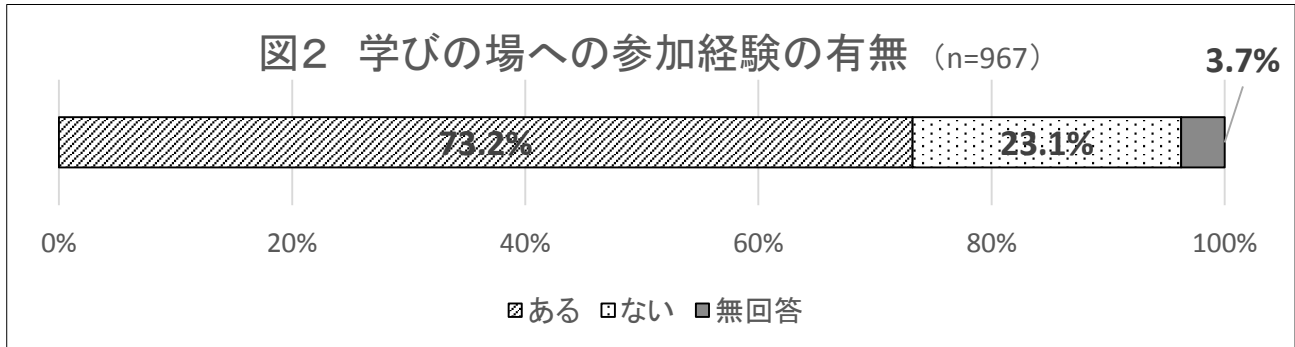


参加者の所属の校種を回答してもらった。小学校 57.8%、中学校 22.7%、義務教育学校 1.2%、高等学校 10.9%、特別支援学校 3.9%であった。【図1-4】

3 結果

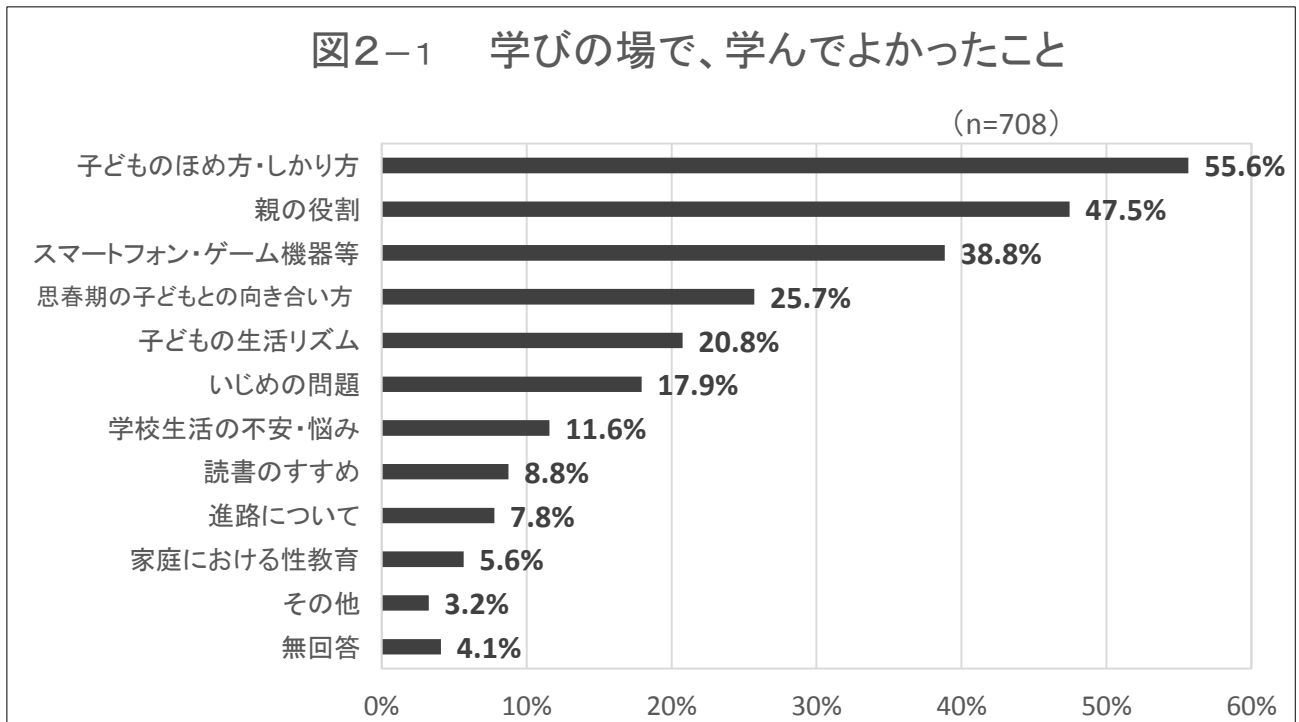
(1) 子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）へ参加した経験について

ア 行政、その他の立場の回答者を除いた保護者と教職員（967 人）の学びの場への参加経験の有無



「参加したことがある」と回答した割合は、73.2%であった。【図2】

イ アで「ある」という回答をした人（708 人）が学んでよかったこと（複数回答）



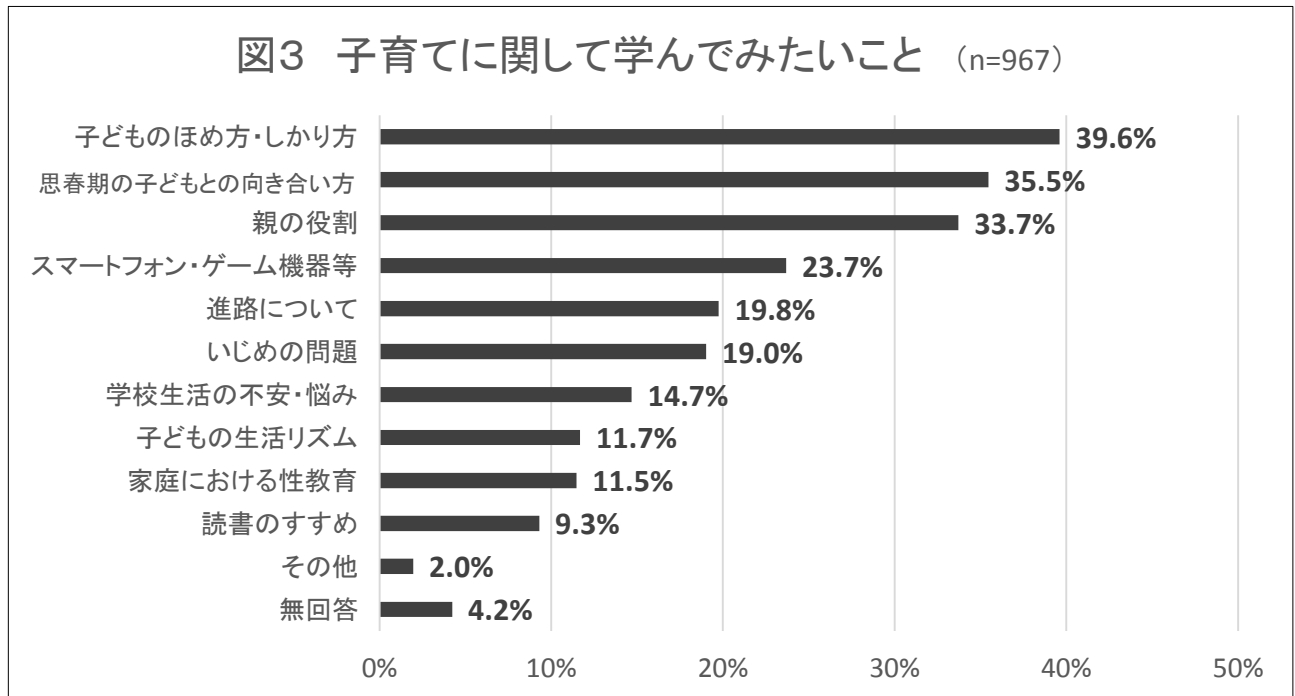
(1)で子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）に参加した経験が「ある」とした回答者に、「学んでよかったこと」を聞いたところ「子どものほめ方・しかり方」が最も多く、次いで「親の役割」だった。3番目には、「スマートフォン・ゲーム機器等」と続いた。【図2-1】

【資料1】その他の主な記述（カッコ内は回答数）

・食育(5) ・心理学(4) ・コーチング(2) ・障害に関すること(2) ・ネットに関する講座(2)

(2) 現在、子育てに関してもっと学んでみたいことについて

ア 行政、その他の立場の回答者を除いた保護者と教職員（967人）が子育てに関して学んでみたいこと



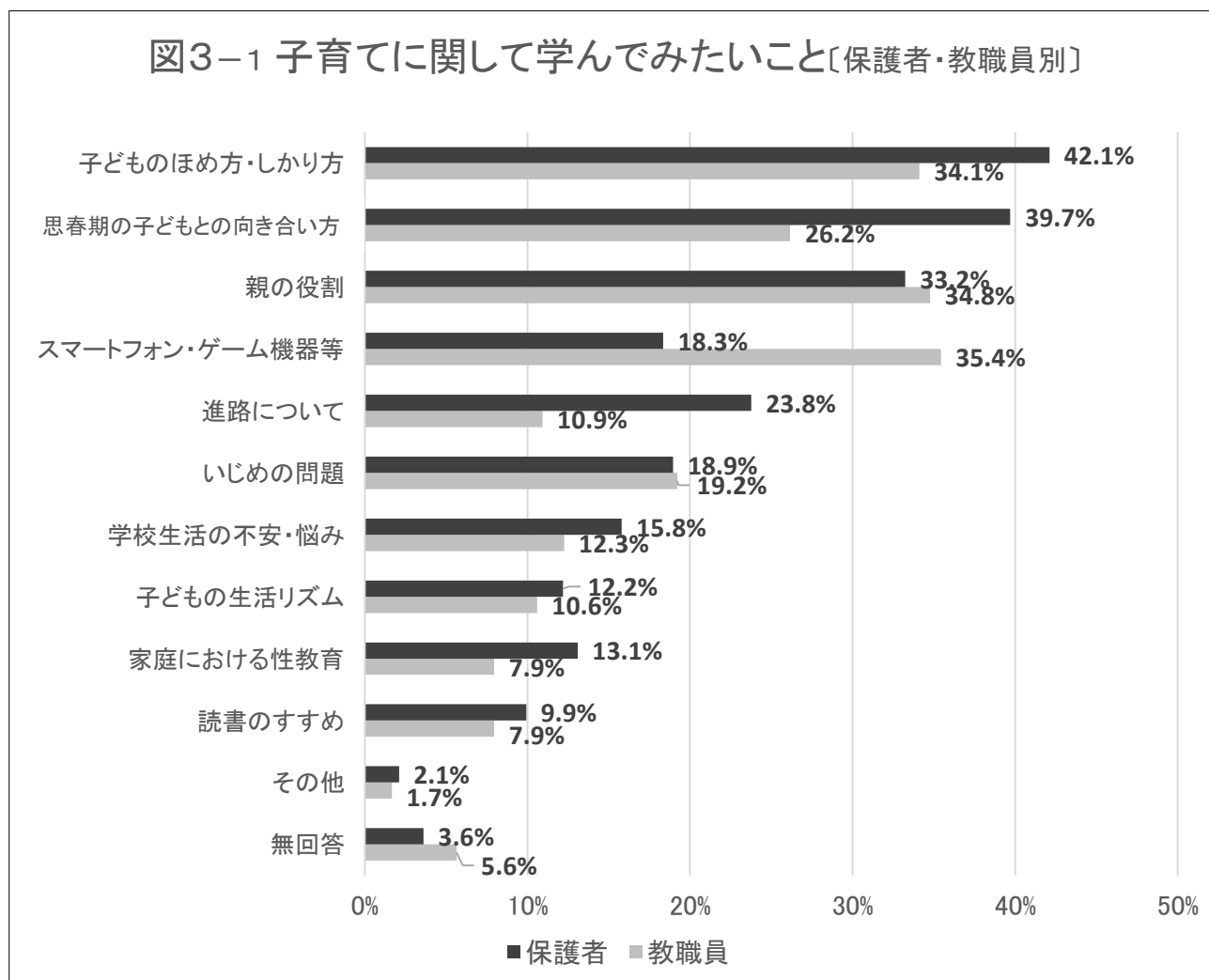
子育てに関してもっと学んでみたいことについて聞いたところ、「子どものほめ方・しかり方」が最も多く、次いで「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」と続いた。【図3】

【資料2】 その他の主な記述（カッコ内は回答数）

- ・子どもとの接し方(4) ・自分の力で生きる、自尊心の育て方(2) ・子育て全般(2)
- ・子どもの貧困、犯罪の年少化(2)

イ アについて保護者（665人）、教職員（302人）別、子育てに関して学んでみたいこと

図3-1 子育てに関して学んでみたいこと〔保護者・教職員別〕



同じ回答を保護者と教職員別に集計したところ、次のような特徴が見られた。保護者は、多い順に「子どものほめ方・しかり方」42.1%で、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」、「進路について」と続く。一方で教職員は、多い順に「スマートフォン・ゲーム機器等」35.4%、「親の役割」、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」となり、保護者とは異なった。【図3-1】

ウ アについて保護者の校種別（小：384、中：159、高：77、特支：26）、子育てに関して学んでみたいこと

【表1】 保護者の校種別集計、上位5テーマ

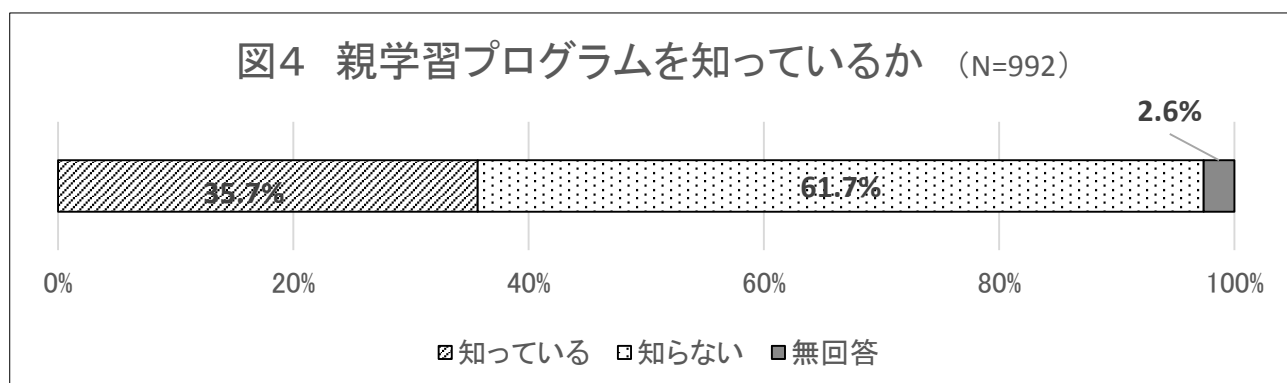
順位	小学校		中学校		高校		特別支援学校	
	テーマ	%	テーマ	%	テーマ	%	テーマ	%
1	子どものほめ方・しかり方	48.4	思春期の子どもとの向き合い方	40.9	思春期の子どもとの向き合い方	36.4	思春期の子どもとの向き合い方	38.5
2	思春期の子どもとの向き合い方	39.8	子どものほめ方・しかり方	35.8	親の役割	35.1	子どものほめ方・しかり方	34.6
3	親の役割	34.1	親の役割	28.9	子どものほめ方・しかり方	24.7	親の役割	34.6
4	進路について	24.0	進路について	25.8	進路について	18.2	進路について	34.6
5	いじめの問題	21.6	スマートフォン・ゲーム機器等	20.8	いじめの問題	14.3	学校生活の不安・悩み	26.9

保護者を校種別に見ると、全ての校種において割合や順番に違いはあるものの、上位3つのテーマは、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」だった。

小学校は、「子どものほめ方・しかり方」が最も高く48.4%だった。中学校、高校、特別支援学校は、「思春期の子どもとの向き合い方」が、それぞれ最も高くなった。【表1】

(3) 栃木県の「親学習プログラム」について

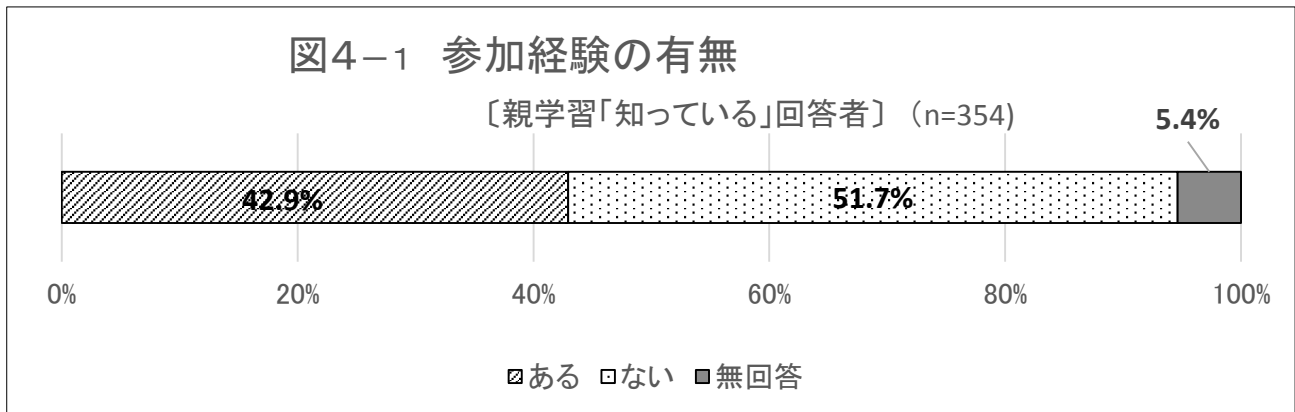
ア 親学習プログラムを知っているか



「知っている」と回答した割合は、35.7%で、「知らない」と回答した割合は、61.7%であった。

【図4】

イ アで「知っている」と答えた(354人)が親学習プログラムを活用した学習への参加経験の有無

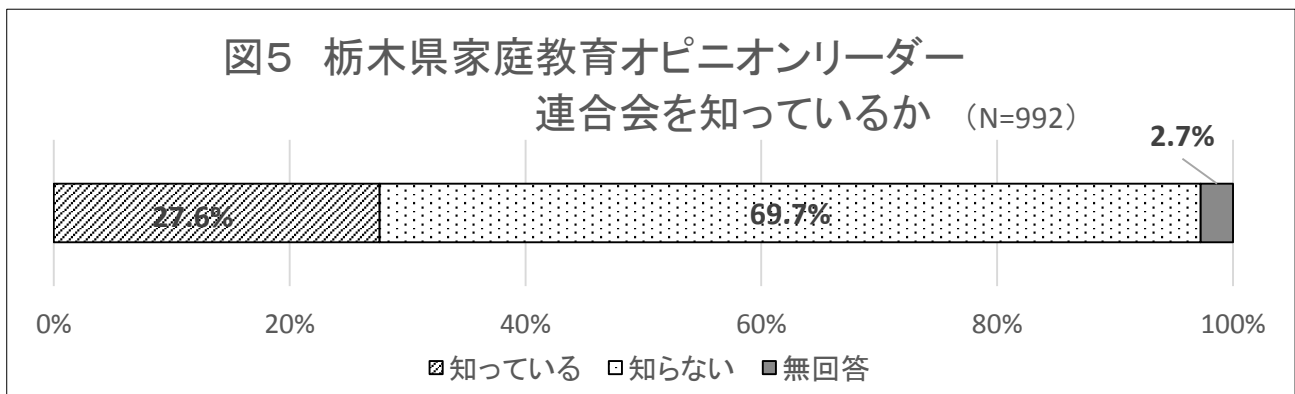


「参加したことがある」と回答した割合が42.9%、「参加したことはない」は51.7%であった。

【図4-1】

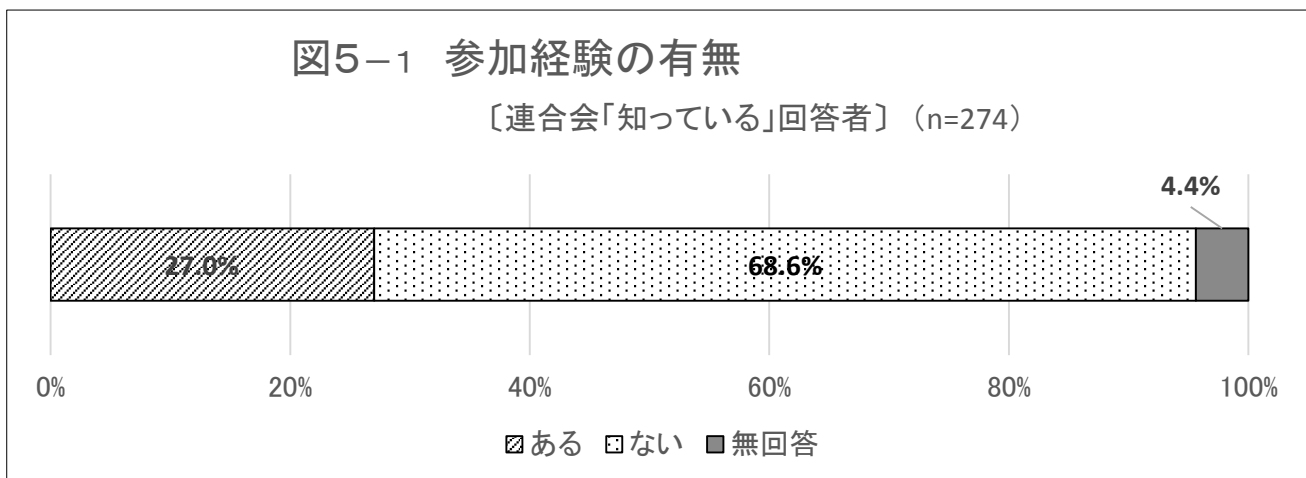
(4) 「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」について

ア 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会を知っているか



「栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会」について聞いたところ、「知っている」と回答した割合は27.6%、「知らない」と回答した割合は、69.7%であった。【図5】

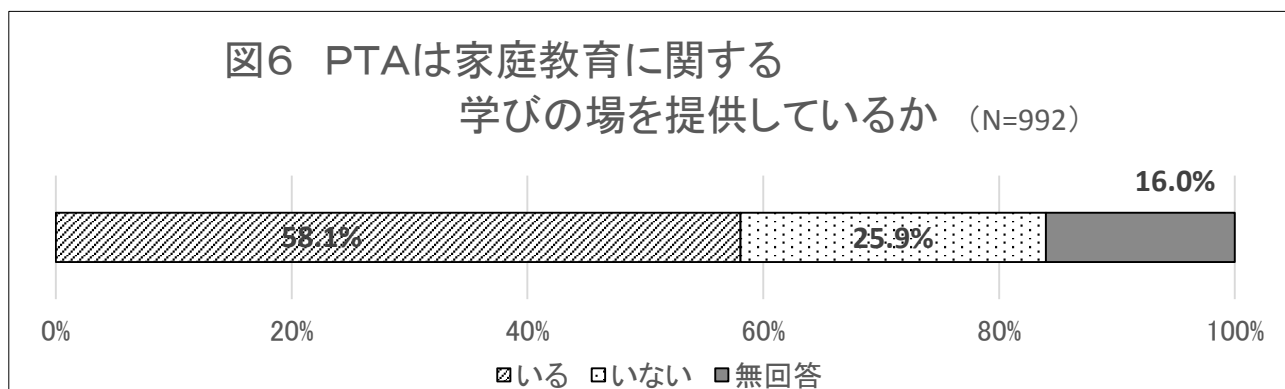
イ アで「知っている」と答えた(274人)が、オピニオンリーダーが行う活動への参加経験の有無



「参加したことがある」27.0%、「参加したことはない」が68.6%であった。【図5-1】

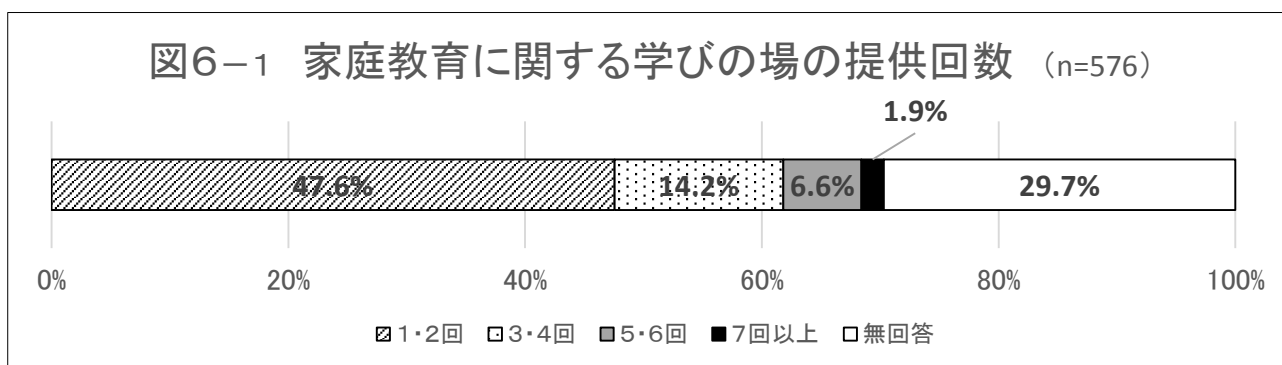
(5) 所属しているPTAの家庭教育に関する学習の場の提供について

ア 所属の単位PTAにおける家庭教育に関する学びの場の提供の有無



「提供している」と回答した割合は58.1%で、「提供していない」は25.9%であった。【図6】

イ アで「提供している」と答えた(576人)が、家庭教育に関する学びの場の提供回数



実施回数は1・2回が47.6%であった。【図6-1】提供している内容は、資料3のとおりである。

【資料3】所属PTAの家庭教育に関する学習の場について主な自由記述（カッコ内は回答数）

○「提供している」内容

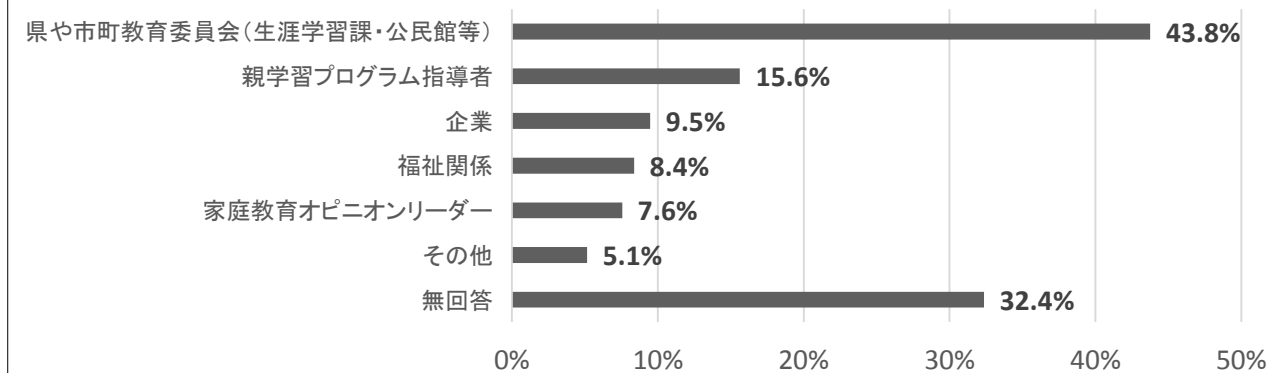
- ・PTA教育講演会（いじめ、LGBT、スマホ・SNS、食育、子どもとの関わり方、思春期）(276)
- ・家庭教育学級などの研修会（料理、手芸等を含む）(38) ・視察研修(23)
- ・子どもと一緒に活動する(17) ・地域や公民館と連携しての活動(7)
- ・研修等報告だよりや報告会(5) ・親学習プログラム(2)

○「提供していない」ので、やってみたいこと

- ・講話（SNS、いじめ、思春期、勉強に関する事、生活リズム、子どもへの接し方、親の経済学、家事、教職員と保護者の協力について）(27)
- ・親子で活動（料理、ボランティア、泥こね）(7)
- ・保護者同士が悩みを話し合うことで安心するプログラム(1)

ウ 「どのような団体等と連携して行っているか、または行いたいか」について

図7 協力している・協力したい団体 (N=992)



「県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等）」が最も多かった。他には、「親学習プログラム指導者」を選択している回答が多かった。【図7】

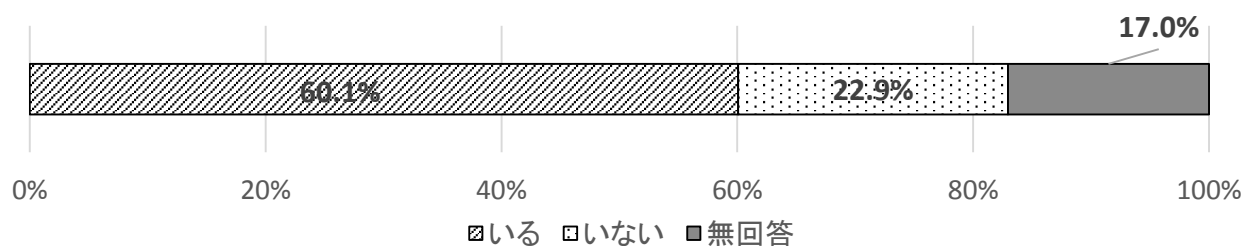
【資料4】 その他の主な記述（カッコ内は回答数）

- ・学校（近隣小学校、中学校ブロック）（8）
- ・地域（開業医や協力隊、卒業生の保護者）（5）
- ・行政（役所、教育委員会、消防、交番）（4）
- ・ボランティア団体（2）
- ・専門家（2）
- ・福祉関係（1）
- ・家庭（1）
- ・テーマに即した団体（1）

(6) 所属しているPTAの会員同士のつながり作りについて

ア 所属しているPTAは、会員同士のつながり作りを力を入れているか

図8 PTAは会員同士のつながり作りを力を入れているか (N=992)



会員同士のつながり作りを「力を入れている」と回答した割合は60.1%であった。「力を入れない」と回答した割合は、22.9%であった。【図8】

【資料5】 会員同士のつながり作りについて、自由記述（カッコ内は回答数）

○行っている内容

- ・スポーツ大会(ソフトバレーボール、レクリエーション、イベント) (129)
- ・PTA 行事、活動全体（専門部、学年部会、支部会、委員会活動等）(69)
- ・懇親会、懇談会、茶話会、食事会(61)
- ・学校行事（学校祭、文化祭、マラソン大会、運動会など）(52)
- ・研修会（料理、手芸、心肺蘇生法の実習、情報教育など）(51)
- ・研修視察旅行（親子の場合も含む）(46)

- ・奉仕作業、労力作業、廃品回収等(38)
- ・親子学習会、親子活動（清掃、レクリエーションなど）(24)
- ・講演会（教育、学校について、食育、コミュニケーションづくり）(16)
- ・地区懇談会、地区別会合、地域活動など(15)
- ・広報活動による情報の共有（メール、SNS、口コミ、HP など）(13)
- ・バザー等(11)
- ・家庭教育学級(9)
- ・保護者の集まる機会や場をつくる（おやじの会、親カフェ等）(7)
- ・PTA への積極的参加の呼びかけ（参加率の高い行事、総会、授業参観等）(6)
- ・ボランティア活動（清掃、読み聞かせ、学習支援など）(5)
- ・親学習プログラム(4) ・普段の中でつながりはできている (4)
- ・運営委員会時のグループワーク、組織作り(3)
- ・市P連への参加による交流など(1) ・先生方を含めて情報交換(1) ・部活等の活動を通して(1)

○「やっていない」ので、やってみたいこと

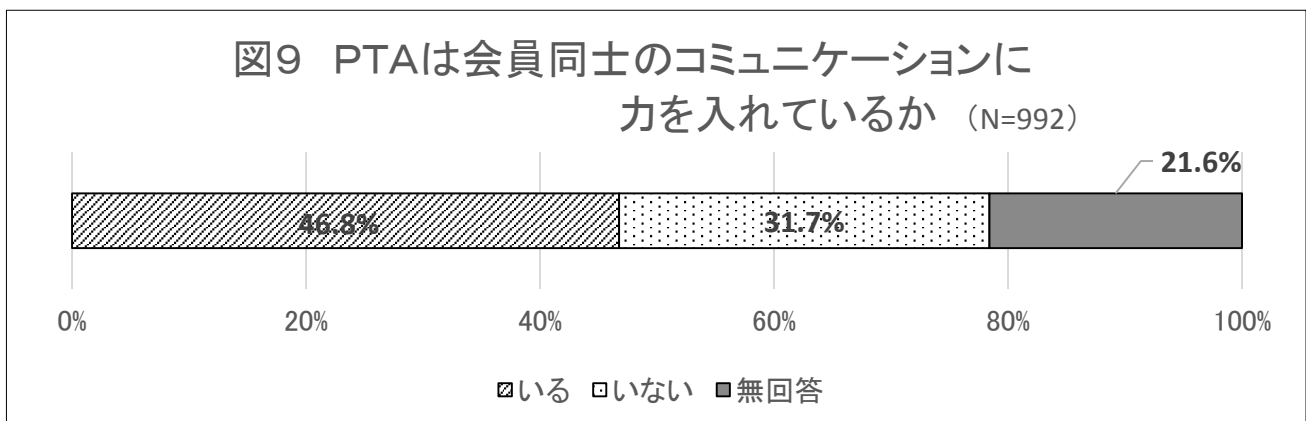
- ・懇親会、親睦会、交流会など(7) ・保護者の集まる機会をもうける(3)
- ・親子でのレクリエーション活動等(2) ・ワークショップで思いを語り合う(2)
- ・PTA 同士のレクリエーション(1)
- ・何かテーマを決めて、一緒に話し合ったり、活動したりしたい。(1)
- ・保護者と教員の連携・懇親会など(1)

○その他

- ・地域が狭いので、そもそもつながっている(5) ・やっているが、参加者が集まらずに中止(4)
- ・時間がとれないので難しい人もいる(2)

(7) 所属している PTA の会員同士のコミュニケーションを増やす活動について

ア 所属している PTA の会員同士のコミュニケーションに力を入れているか



「力を入れている」と回答した割合は、46.8%であった。「力を入れない」と回答した割合は、31.7%であった。【図9】

【資料6】会員同士のコミュニケーションを増やす活動について、自由記述（カッコ内は回答数）

○行っている内容

- ・レクリエーション(スポーツ含む) (76) ・研修会（料理、手芸等の趣味系）、講演会の開催(62)
- ・懇親会（食事会等も含む）(56) ・PTA 行事や活動全体(38)
- ・研修視察旅行（大学見学等）(36) ・運動会等の学校行事を通して(22)
- ・奉仕活動（廃品回収、清掃等）(15) ・地区懇談会、地域集会(11)
- ・広報活動による情報提供（HP、メール、広報紙など）(9)

- ・活動というよりは、努力をしているといったところ(9)
- ・ボランティア（教材整理等を含む）を企画(7) ・親学習プログラム(4)
- ・コミュニケーションアプリなどでグループを作っている(4) ・家庭教育学級(2)
- ・PTA とは関係なくコミュニケーションの場が多くある(1)
- ・地域的にコミュニケーションをする場所、PTA が学校に協力的だから自然にコミュニケーションしている。(1)
- ・部活動育成会などでは、先生方も含む場を設けて、子どもたちの様子や親の悩みを伝えられる。(1)
- ・高校なので、特に必要性を感じない(1)

○つながり作りをしていないので、やってみたいこと

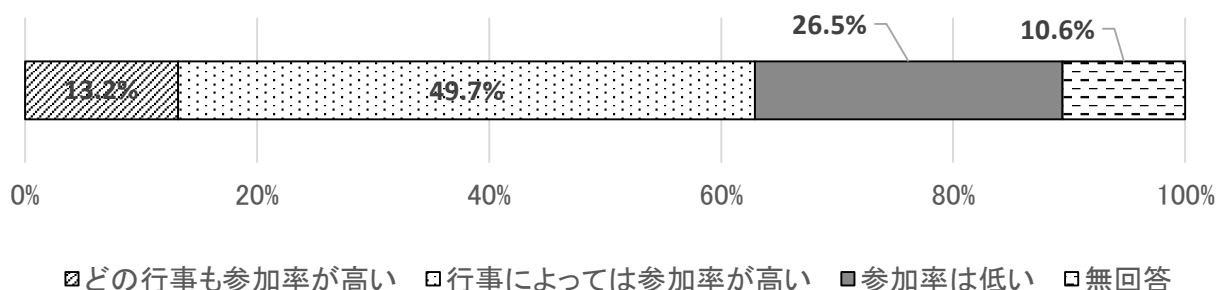
- ・懇親会、放課後のお茶会など(11) ・レクリエーションなど(10)
- ・子どもと一緒に参加する行事の実施(7)
- ・親同士、小グループで話す場や顔を合わせる機会を作る(6)
- ・研修旅行(2) ・廃品回収、勉強会(1)

○その他

- ・小規模な学校なので、会員の方がほとんど行事等に参加したり、大体顔もわかり話したりするので、親睦を増やす必要は今のところない。地域でのつながりは強い。(5)
- ・集まるのが難しい（共働き世帯の増加や学区の拡大等）(5)
- ・重要な課題として考えているが、具体的な方策はない。(3)
- ・PTA 活動も少なくなりつつあるからこそ、PTA 同士のつながりが必要だと思う。(1)

(8) 所属している PTA の父親の行事等への参加の程度について

図10 PTAの行事等への父親の参加率 (N=992)



ア 所属している PTA の行事等への父親の参加率

「行事によっては参加率が高い」49.7%、「参加率は低い」26.5%、「どの行事も参加率が高い」13.2%となった。【図10】

【資料7】父親の行事等への参加について、自由記述（カッコ内は回答数）

○参加率が高い行事名

- ・運動会、球技大会、スポーツ大会(316) ・奉仕活動、資源物回収(137)
- ・文化祭、学校祭、音楽発表会、学習発表会、芸術鑑賞会(55)
- ・授業参観、家族参観、オープンスクール(40) ・学校行事全体(18)
- ・育成会や地域のイベント等(17) ・力仕事や体力の必要な内容のものなど(13)
- ・入学式、卒業式(12) ・バザー(6) ・親子ふれあい活動、親子レク(5) ・PTA 総会(5)
- ・PTA 役員会、支部会等(4) ・懇親会(2) ・親学習プログラム(1) ・登校時の見守り(1)
- ・部活の試合、大会(1) ・5 S（整理・清掃・整頓・清潔・しつけ）活動（PTA）(1)

- ・PTS（P：保護者、T：教員、S：生徒）話し合いの会(1)

○参加が増えるようなテーマ

- ・父親の〇〇というように限定してしまう(19) ・親子での活動(17)
- ・父親が得意とすること(14) ・体力が必要な活動や力仕事など(7)
- ・健康、食育(3) ・おやじの会をつくる(2) ・子育ての中での父親の役割等(2)
- ・母親だけではなく、夫婦での参加により、父親の協力を受ける。(2)
- ・PTAの役職に父親が就くこと(1) ・懇親会(1) ・奉仕活動、廃品回収(1)
- ・ロールプレイで相手の立場が実感できるようなワークショップ（平田オリザさんなど）(1)
- ・今年の試みとして花火大会の様なものを企画し、父親の参加アップをねらっている。(1)

○その他

- ・父親が参加できる日時を検討した方がよい（土日など）。(19)
- ・父親が向いている活動を行う(12) ・PTA 全体の人数が少ないので、参加率は高い(3)
- ・行事ではないが部活の練習・試合等はお父さん方の協力が欠かせず、協力的である。(2)
- ・参加率より何が必要かを考えた方がよい(2) ・地域力だと思います(1)
- ・母子家庭も多く難しい(1)

- (9) 今後、PTA 活動における家庭教育支援の充実のための学習内容について

PTA 活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような内容を会員みんなで学習したいかについては、【資料8】のとおりである。

【資料8】学習内容について、自由記述（カッコ内は回答数）

○保護者

- ・親子の関係、親の役割などについて(23) ・人権教育（体験型）(13)
- ・子どもの生活リズム（健康に関する心理や食育を含む）(12)
- ・子どもとの接し方（思春期を含む）(11)
- ・スマートフォンやゲームを通じたソーシャルネットワークの問題(8)
- ・家庭学習について(7) ・内容によっては子どもにも参加し一緒に学べる工夫(7)
- ・子どもの成長の為に、保護者が学校などどのようにかかわっていくべきか(6)
- ・進路について、職業の選び方(6)
- ・地域で子育てを考えること（つながり、文化や歴史を学ぶなど）(6)
- ・学校における学校行事へのPTA や地域住民のあり方（運営の仕方）(3)
- ・家庭が望むのであれば可能であるが、PTA から家庭へというのはどうなのか(3)
- ・福祉(2) ・保護者の意識改革、勉強会を開催し定期的に行う(2) ・ちらし配布(1)

○教職員

- ・子どもに対する接し方（思春期含む）(27)
- ・スマートフォンやゲームを通じたソーシャルネットワークの問題（親同士なども含む）(23)
- ・子どもとの関わり方（子どもとの距離感の取り方）(14)
- ・親の役割(13) ・学校の役割と親の役割(13) ・生活リズム(11)
- ・子どものしつけ、規範意識の高揚など(8) ・家庭学習(7) ・保護者と学校の連携(6)
- ・キャリア教育(5) ・親子でふれあうことができる活動プログラムを学びたい。(5)
- ・PTAのあり方(負担のかからない充実した活動や土日や長期休業を活用した開催の工夫)(5)
- ・地域と子のつながり(5) ・子育て支援(4)
- ・講演会等で親の姿を学んで欲しいが、なかなか参加されない現状(3)
- ・特別支援教育(2)
- ・アンガーマネジメントなど、実際のワークショップ型のもの(1)
- ・現代の子どもたちの現状に関する内容(1)

(10) PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等について

PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等については、【資料 9】のとおりである。

【資料 9】協力したい団体等について、自由記述、(カッコ内は回答数)

- ・ NPO 団体等(5) ・ 県、市町教育委員会(5) ・ コミュニティ、自治会、企業(4)
- ・ 親学習プログラム、家庭教育オピニオンリーダー(3) ・ (子ども) 福祉課(2)
- ・ 社会福祉協議会(2) ・ 食育を行っている団体、特に農業体験を行っている団体、JA など(2)
- ・ 青少年巡回指導員、青少年指導員、青少年育成市民会議(2)
- ・ アシストネットボランティア、おやじの会(1) ・ 学校評議員(1) ・ 警察(1)
- ・ 障害者(児) 団体(1)

4 まとめ

ここでは、PTA 指導者研修で行った調査から明らかになったことをまとめる。

(1) 子育てに関する学びの場（家庭教育学級、子育てサークル、PTA 講座等）での学びの内容について（行政、その他の立場の回答者を除く）

子育てに関する学びの場に 7 割を超える参加経験者がいた。参加経験者は、学んでよかったこととして、「子どものほめ方・しかり方」、「親の役割」、「スマートフォン・ゲーム機器等」の順で意見が多かった。一方、保護者と教職員をあわせた、子育てに関して学んでみたいことは、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」の順で意見が多かった。さらに、保護者、教職員別で見ると、違いが出た項目が「思春期の子どもとの向き合い方」と「スマートフォン・ゲーム機器等」であり、「思春期の子どもとの向き合い方」は保護者が、「スマートフォン・ゲーム機器等」は教職員が学んでみたいと思う割合が高かった。保護者を校種別に見ても、「子どものほめ方・しかり方」、「思春期の子どもとの向き合い方」、「親の役割」は順位に違いはあるが、どの校種でも学んでみたいことであった。

【図 2-1】【図 3】【図 3-1】【表 1】

(2) 栃木県の「親学習プログラム」の認知度について

アンケート結果から、親学習プログラムを知っていると回答した人は、35.7%であった。更に、「知っている」と回答した人でも、「参加したことがある」と回答した人は 42.9%であった。

多くの市町で就学時健康診断時に、保護者向けに「親学習プログラム」を活用した学習の機会を提供していて、保護者が既に体験をしていると考えられる。しかし、実際に体験したプログラムと「親学習プログラム」という名称が、保護者の中で合致していないということが明確になった。

【図 4】【図 4-1】

(3) 栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の認知度について

アンケート結果から、家庭教育オピニオンリーダー連合会を知っていると回答した人は、27.6%であった。更に、「知っている」と回答した人でも、「参加したことがある」と回答した人は27.0%だった。

なお、栃木県家庭教育オピニオンリーダーは、旧市町単位で支部を作り30年近く活動をしてきている。各支部では、「よもぎの会（西那須野支部）」や「さくらんぼの会（市貝支部）」などの名称を付けて活動しているところがほとんどである。【図5】【図5-1】

(4) PTA 活動について

所属しているPTAによる家庭教育に関する学びの場の提供の有無について質問したところ「提供している」という回答は、6割弱であった。「提供していない」という回答は2割強である。さらに、「提供している」と回答した人に提供回数を聞いたところ、「1・2回」が5割弱であった。提供している内容は、「PTA教育講演会」が最も多かった。また、件数は2件だったが、親学習プログラムを行っているところもあった。さらに、「提供していない」と回答した人に、提供していないのでやってみたいことを聞いたところ、「講話」が最も多かった。【図6】【図6-1】【資料3】

所属しているPTAが家庭教育に関する学習の場をどのような団体と連携して行っているか、または行いたいかについては、「県や市町教育委員会（生涯学習課・公民館等）」が最も多くあげられていた。【図7】【資料4】

所属しているPTAは会員同士のつながり作りに力を入れているかについては、「力を入れている」という回答は6割で、内容は「スポーツ大会」が最も多く、「PTA行事や活動全体（専門部、学年部会等）」、「懇親会や懇談会等」、「学校行事（学校祭、文化祭等）」があがっていた。【図8】【資料5】

所属しているPTAは会員同士のコミュニケーションに力を入れているかについては、5割弱が「力を入れている」と回答した。「レクリエーション（スポーツ含む）」が最も多く、次いで「研修会や講演会」、「懇親会」があがっていた。【図9】【資料6】

所属しているPTAの行事等への父親の参加率については、「どの行事も参加率が高い」、「行事によっては参加率が高い」を合わせた回答は、6割だった。「どの行事も参加率が高い」、「行事によっては参加率が高い」と回答した人に、「参加率が高い行事名」を聞いたところ、「運動会、球技大会、スポーツ大会」が最も多く、「奉仕活動、資源物回収」、「文化祭、学校祭、音楽発表会、学習発表会、芸術鑑賞会」と続いた。また、「参加率は低い」と回答した人には、「父親の参加が増えるようなテーマ」を記述してもらったところ、「父親の〇〇というように限定する」、「親子で活動」などがあがっていた。【図10】【資料7】

これらのことから、「学びの場」で行われているのは、いじめ問題等現代的課題をテーマとした「講演会や講話」が多く、「会員同士のつながり作り」や「会員同士のコミュニケーション」、「行事等への父親の参加率が高いもの」については、体を動かす「スポーツ大会」や「レクリエーション」が多いことがわかった。

(5) PTA 活動における家庭教育支援について

今後、PTA 活動における家庭教育支援を充実させるために、どのような内容を学習したいかについては、保護者と教職員とで記述内容に差があることから、立場に分けて集計した。保護者の記述は、「親子の関係、親の役割」、「人権教育（体験型）」が多かった。一方、教職員の記述は、「子どもに対する接し方（思春期を含む）」、「スマホやゲームを通じてのソーシャルネットワークの問題（親同士なども含む）」が多かった。【資料8】

PTA 活動における家庭教育支援の効果をあげるために協力したい団体等については、「NPO 団体等」、「県、市町教育委員会」などがあげられていた。【資料9】